

第47回春季大会開催速報

平成12年度春季大会を5月13日(土)実践女子大学を会場に、デザインアクリティレーションおよび21世紀のデザインの方向性(仮称)をテーマとして開催することになりました。会場となる実践女子大学・日野大坂上キャンパスは、平成11年の学園創立100周年にあわせて整備が進められ、講堂など三つの建物が新たに建設され、明るい雰囲気になりました。多数の会員のご参加をお待ちしております。実践女子大学・日野大坂上キャンパス 〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1 tel:042-585-8815

<http://www.jissen.ac.jp/>

キャンパスへのアクセス：<http://www.tokyo-wd.ne.jp/jissen/un/index.html> JR日野駅から線路沿いの道を八王子方面に向かい徒歩15分です。

春季大会当日は、午前中に定期総会と各賞受賞者記念講演を、また午後から講演を予定しております。受付は9:30開始を予定しております。ふるってご参加ください。

平成12年度総会開催速報

平成12年度(通算第47回)総会を、春季大会に併せて開催いたします。

会場：実践女子大学・日野大坂上キャンパス

日時：平成12年5月13日(土)

午前10:00 ~ 11:00

9:30受付開始

内容：新役員紹介、平成11年度事業報告・決算報告・会計監査報告、平成12年度事業計画・予算案

第47回秋季大会開催速報

平成12年度秋季研究発表大会を岡山県立大学を会場として開催することが決定いたしました。詳細な日程等につきましては、現在調整中です。決定次第、会報および学会のホームページにてお知らせいたします。

第46回秋季研究発表大会報告

大会実行委員長 豊口 協

平成11年度秋季研究発表大会は10月29日(金)、30日(土)の両日にわたって、長岡造形大学キャンパスを会場に開催されました。

二日間とも快晴に恵まれ、想像をはるかに超えたすばらしい大会になりました。9月初めに造園学会の関東支部大会が開かれたとはいえ、本格的な研究発表大会は初めてのことであり、スタッフ一同心して運営の実施に当たりました。

学部棟と大学院棟を会場にあて、長岡造形大学の教職員、事務職員はもとより、ボランティアの形で参加した学生諸君の協力によって、極めてスムーズに、しかもおしゃな運営が行われました。

緑の木々と芝生に囲まれたキャンパスに秋の美しい日差しが差し込み、全国から集まった大会参加者の皆様に、長岡の誠意が実ったように思えました。

■大会参加者は、

正会員	285名
賛助会員	4名
名誉会員	6名
一般	15名
合計	310名

新幹線で1時間40分とはいえ、創設6年目を迎えたこの若い大学で開く大会に、どのくらいの方々をご参加くださるか気になっておりましたが、300名を超える参加者をお迎えできたことを、感謝いたしております。

■研究発表件数は、

口頭発表	126件
ポスター	16件
パネル	17件
合計	162件

とこれも盛況でした。

なお、概要集に掲載された研究発表のなかで、下記の1報は、大会当日、発表者不在により発表が行われませんでした。学会発表に関する大会の申し合わせ規定「概要集に記載された内容そのものが、公的な研究発表としての効力を失する」に



主要駅から日野駅までの所要時間

- ・中央線(新宿駅から日野駅)約45分(特別快速で約30分)
- ・武蔵野線(南浦和駅から日野駅)約40分
- ・南武線(武蔵小杉駅から日野駅)約1時間
- ・横浜線(横浜駅から日野駅)約1時間10分
- ・日野駅から歩いて約15分

従いまして、発表無効を公表いたします。
該当する掲載内容の削除をよろしくお願
いいたします。

題目：認知地図からみた都市空間構成の
認識 - その 1 . 性差の検討

発表者：西應浩司、材野博司、松原斎樹

■学会各賞表彰式

総会に引き続き、平成11年度日本デザ
イン学会「学会賞」「研究奨励賞」「年間論
文賞」「年間作品賞」「功労賞」「特別表彰」
が会長より授与されました。

■記念講演

世界の銘酒「朝日山」の醸造元、朝日山
酒造取締役(元新潟県醸造試験場長)の嶋
梯司氏をお迎えし、本学大講義室におい
て記念講演が行われました。

日本酒の歴史やさまざまな話題を中心
にたのしい一時を過ごさせて頂きました。

■懇親会の参加者

会 員 81名

名誉会員 4名

一 般 4名

合 計 89名

(ADC参加者を除く)

懇親会は、会場をグランドホテルに移
し、郷土の伝統芸能を皮切りに、アジアデ
ザインカンファレンス参加の外国からの
お客様も含め日本酒にお料理に話題が広が
りました。

■関連

第4回アジアデザインカンファレンス
がこのあと30日、31日と開催され、国際
色豊かなキャンパスになりました。

またスチューデントプログラムも実施
され、深夜まで大学院棟のあかりは輝き
つづけました。

今回は二つの大会が続けて開かれたこ
ともあり、関係各位には相当の精神的、肉
体的負担をおかけすることになったよう
ですが、参加された方々からの励ましと
感謝のお言葉によって歓びの花を咲かせ
ることができました。

次回は、岡山県立大学を約束して閉会
となりました。

事務局より

住所変更はお済みですか？

春は住所不明で戻ってくる郵
便物が増えます。

**住所変更は確実にお願いし
ます。**

お知り合いの方で、引っ越さ
れた方、転勤された方がおられ
ましたら、この旨をお伝えくだ
さい。

変更届は封筒の裏の書式をご
利用ください。

<販売中>

○第46回研究発表大会概要集
3,000円(送料込み)

○バックナンバー

(論文集, 作品集, 特集号)

**お申し込みは本部事務局まで
(文書にてお願いいたします。)**

〒167-0042

杉並区西荻北 4-4-2

セレスト西荻窪 201

日本デザイン学会本部事務局

FAX.03-3301-9318

理事会報告

平成11年度第3回理事会議事録

日 時：平成11年7月17日（土曜日）

13:00 ~ 15:30

場 所：拓殖大学文京キャンパス

D館第2会議室

出席者：宮崎、原田、青木、五十嵐、古屋、田中

委任状出席：黒川、國澤、車、長谷、日原、山中、吉田、渡辺、三橋

特別出席：Kun-pyo, Lee

1. 会長挨拶

会長挨拶とともに、韓国デザイン学会 kun-pyo Lee 氏が紹介された。

< 審議事項 >

2. 平成11年度第2回理事会議事録の承認
田中副本部事務局長より前回の議事録（案）が提示され、3カ所訂正することで承認された。

訂正箇所：

審議事項2（誤）編集担当者宛に委員長ならびに会長名で

（正）編集担当者宛に学会誌編集・出版委員会委員長ならびに会長名で

報告事項5（誤）研究概要による審査を4月28日までに終了し、

（正）研究概要による審査を終了したものが、4月28日時点では、
報告事項5（誤）153件を受諾した旨の報告がなされた。

（正）153件である旨の報告がなされた。

3. 平成12年度春季大会および秋季大会について

宮崎会長より、平成12年度春季大会を実践女子大学を会場としてデザイン史部会を中心として開催、また平成12年度秋季大会を岡山県立大学を会場として開催する旨の案が提示され、審議の結果承認された。なお、日程等については、先方の実行委員会からの連絡を待って決定することとした。

4. 選挙監理委員の選出

宮崎会長より、「日本デザイン学会役員選挙規定第10条第2項」に基づいて、選

挙監理委員の選出の議案が提出された。審議の結果、五十嵐浩也会員が委員長に選出され、委員4名については、後日五十嵐委員長より推薦いただき理事会で承認することとした。

5. 学術会議からの調査依頼について

宮崎会長より、学術会議から「工学教育におけるエンジニア教育の位置づけ」に関するアンケートに対する回答が依頼されている旨が紹介された。審議の結果、デザイン教育機関にアンケートを送付し、デザイン学会としてまとめて回答することとした。回答のまとめ作業は加藤PE検討委員会委員長に依頼し、回答書を書面にて理事に送付し承認を得た上でデザイン学会の回答とすることとした。アンケート回答のまとめ作業は、宮崎会長および日野、杉山、加藤、伊藤、黒川、須永、尾登、古屋、鈴木、五十嵐の各理事および会員が担当することとなった。

6. 会員の移動について

本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会〔正会員28名（うち外国人会員2名）年間購読会員1件〕退会〔正会員11名（うち外国人会員1名）年間購読会員2件〕休会〔正会員1名〕が承認された。また、提出されていた休会願い2名については、事由説明がなされた時点で承認することとした。

< 報告事項 >

7. 長岡造形大学訪問について

宮崎会長より、6月中旬に長岡造形大学に挨拶に出向き、その場で4th ADC総務委員会メンバー（豊口、宮崎、原田、黒川、松丸、境野の6名）を設けることが決定した旨が報告された。

8. 4th ADC審査状況報告

原田副会長より、別紙資料に基づいて4th ADCの審査方法が報告された。

9. 4th ADCプログラム案の報告

五十嵐4th ADCプログラム委員より、4th ADCプログラム案の詳細が報告された。

10. セミナーの紹介

古屋理事より、別紙資料に基づいて、デザイン方法論研究部会の主催により、「第1回日本型インハウスデザインマネージメントセミナー」を8月20日に開催する旨が紹介され、参加が呼びかけられた。

11. 韓国からの著作権のエージェントの問い合わせ

宮崎会長より、韓国から著作権エージェントの必要性についての問い合わせがあった旨が報告された。Kun-Pyo Lee先生に調査を依頼することとした。

12. 学会各賞推薦状況

宮崎会長より、学会各賞推薦状況について報告がなされた。第1回委員会を7月31日に開催することが確認された。

13. 次回日程

次回理事会（拡大）を平成11年9月11日（土曜日）13:00より、（株）東芝会議室にて開催することとした。

平成11年度第4回理事会議事録

日 時：平成11年9月11日（土曜日）

13:00 ~ 16:00

場 所：（株）東芝39階会議室

出席者：宮崎（清）原田、黒川、青木、五十嵐、伊藤、加藤、國澤、久保、古賀、後藤、杉山、鈴木、平、豊口、中嶋、蓮見、日原、藤森、堀田、宮内、山中、和田、三橋、古屋、田中

委任状出席：糸井、川崎、渋谷、長谷、服部、日野、宮崎（紀）森田、渡辺

欠席者：荒井、車、後藤、吉田

1. 会長挨拶

2. 平成11年度第3回理事会議事録の承認
田中副本部事務局長より前回の議事録（案）が提示され、出席者名等の一部修正の上、承認された。

< 審議事項 >

3. 学術会議からの問い合わせに関する回答について

宮崎会長より、日本学術会議・第5部・工学教育研究連絡委員会より日本デザイン学会に「工学教育におけるアンケート」の依頼があり、学会として検

討の上、8月末日に提出した旨の報告があった。本学会では、新しい世紀に応える工学教育、世界に通用するP E資格等の検討の一環として、この質問状を本学会の100程度の機関に送付し、現在20ほどの回答があったこと、ならびに、未回答の約80の機関についても今後ひきつづき回答を待つこととした。また、このまとめは、学会特集号、あるいは春季大会のテーマ等に活かしたいとの意向が表明された。

今までに得られた回答をまとめ、学会議に正式回答として提出したい旨の発言があり、承認された。

それを受けて、学会議内でのデザインの位置づけとしてのマクロな刺激として有効なので、会員に集計結果をフィードバックしてほしい等の意見が出され、これに対して、宮崎会長より、未回答分についても督促し、集計結果を事務局がまとめ、フィードバックしたいとの意向が表明された。

また、それに関連して、加藤P E検討委員会委員長より、P E制度の日本の状況、アメリカの動向を整理し、杉山理事より工学系大学に送付したとの報告と、韓国他アジアでの今後の動きがあるだろうとの発言があった。

4. 来年度春季大会のテーマについて
宮崎会長より、来年度春季大会は、日野理事の実践女子大にお願いし、「20世紀の本学の歩み」「21世紀のデザイン教育のありよう」が討議できるようなテーマ設定とする旨が紹介された。デザイン史部会を含めてそれらが検討できるよう、三役で主催者の検討・調整をするとの発言があり、承認された。
5. 学会各賞について
古賀理事より、7月31日に第1回学会各賞選考委員会の経緯と、結果として、学会賞1名、研究奨励賞3名、年間論文賞1件、年間作品賞1件が選考された旨が説明され、承認された。また、功労賞に宮内氏、特別表彰に鈴木邁氏が推薦され、承認された。
6. アジアデザイン学会の組織について

宮崎会長より、長岡大会でアジアデザイン学会の創設を宣言する旨の発言があり、その概要が説明され、承認された。組織運営はフレキシブルに(鈴木理事)秋のデザイン学会ではこの件のアナウンスの必要あり(中山理事)総会では事後承認(宮崎会長)などの意見が出された。

7. 選挙監理委員の推挙について
五十嵐選挙監理委員長より、選挙監理委員として和田、後藤、久保の3理事と評議員から生田目氏の計4名が推挙され、承認された。人気は平成11年8月1日より2年間となる。

<報告事項>

8. 秋季研究発表大会準備状況について
秋季研究発表大会準備状況について、豊口大会委員長より、開催校の準備状況、交通・ホテル等の環境、長岡市デザインフェアについての説明があった。それに関連して、第4回アジア・デザイン・コンファレンスのフルペーパーの審査結果で104件が受理されたこと(原田副会長)プログラム(山中理事)スペシャルセッション等の概要(杉山理事)の報告があった。
また、論文集にacceptanceを記載する旨の意見があり、了承された。
9. 概要集進捗状況について
概要集進捗状況について、委員長代理として宮崎会長から報告があった。
10. 会員の移動について
本部事務局長より提出された書類を回覧、審査した結果、入会[正会員47名(うち外国人会員7名)]年間講読会員1件、退会[正会員11名]が承認された。
11. DM部会セミナー報告
杉山理事より、デザインマネージメントセミナー(DM部会主催)に77名の参加があった旨、報告があった。
12. 作品審査・作品集編集委員会報告
黒川作品審査・作品集編集委員会委員長より、第5号作品集は地方印刷所に依頼する方向で進行中の旨、報告があった。
13. 次回日程

次回理事会を平成11年10月29日(金)12:00より長岡造形大学にて開催することとした。

平成11年度第5回理事会議事録

日時:平成11年10月29日(金曜日)

12:00 ~ 13:00

場所:長岡造形大学

出席者:宮崎(清) 原田、黒川、青木、五十嵐、伊藤、國澤、久保、車、古賀、後藤、清水、杉山、鈴木、平、豊口、蓮見、服部、日野、日原、藤盛、堀田、宮内、宮崎(紀) 森田、山中、吉田、渡辺、三橋、古屋、田中

委任状出席:荒井、糸井、加藤、川崎、渋谷、中嶋、長谷、和田

名誉会員:高山、鈴木、田中(正) 森(典) 朝倉、藤盛、宮内

大会実行委員会:境野

1. 会長挨拶

会長挨拶にひきつづき、会長より大会実行委員会委員と名誉会員が紹介された。

<審議事項>

2. 平成11年度第4回理事会議事録の承認
田中副本部事務局長より前回の議事録(案)が提示され、原案通り承認された。
 3. 平成12年度春季大会・秋季大会についての確認
宮崎会長より、平成12年度春季大会を実践女子大学を会場に、デザインアクレディテーションおよび21世紀のデザインの方向性(仮称)をテーマとして開催する旨、また、秋季大会を岡山県立人学を会場として開催する旨が確認された。日時等の詳細については、ひきつづき会場校との折衝を行うことで承認された。
 4. 会員の移動について
本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会[正会員15名(うち外国人会員3名)]年間講読会員2件]退会[正会員6名、賛助会員1件]が承認された。
- <報告事項>
5. 感性工学委員会および学会の現状について

- 鈴木特設理事より、感性工学の科研費申請区分の期限切れに伴い、恒常化を申請した旨が紹介された。今回は選に漏れたものの、有力候補として恒常化もしくは特設の延長を申請していく砲身である旨が報告された。
6. 学術会議第一部関係について
日野特設理事より、別紙資料に基づいて芸研連より「国立博物館、美術館の独立行政法人化について」という提言を政府機関に申し入れた旨が報告された。
7. 台湾大地震義援金について
宮崎会長より、秋季研究発表大会受付に台湾大地震義援金の募金箱を備え付けた旨が紹介された。
8. デザインアクレディテーション検討委員会から
杉山理事より、1か月に1回のペースで委員会を開催し、勉強会を続けている旨が報告された。10月23日日本工学会の主催により、JABEEの発足説明会が開催された旨が紹介された。そのなかで、デザイン学会の活動が紹介された。また、デザインアクレディテーションに関する勉強会の報告を、特集号として発刊する旨、学会誌出版編集委員会と交渉中との報告がなされた。
9. 4thADC最終審査状況
原田副会長より、別紙資料に基づいて、4thADCの最終審査状況が報告された。
10. アジアデザイン学会設立について
宮崎会長より、別紙資料に基づいてアジアデザイン学会の設立宣言文が紹介された。
11. 長岡市の講演について
宮崎会長より、長岡での学会開催にあたり援助をいただいている長岡市において、同時開催中のデザインフェアにて清水忠男理事より講演をいただいた旨が報告された。
12. 次回理事会について
次回理事会（拡大）を平成11年12月25日（土）に開催することとした。場所等の詳細については、会長と事務局の協議にて決定することとした。

- 平成11年度第6回理事会議事録
日 時：平成11年12月25日（土曜日）
15:00～17:00
場 所：（株）東芝39階3903会議室
出席者：宮崎、原田、黒川、五十嵐、伊藤、加藤、國澤、久保、車、古賀、後藤、杉山、鈴木、平、豊口、中嶋、蓮見、服部、日原、藤盛、宮内、宮崎（紀）、山中、和田、田中
委任状出席：青木、荒井、糸井、古賀、渋谷、清水、長谷、日野、堀田、森田、吉田、渡辺、三橋、古屋
欠席者：川崎
1. 会長挨拶
会長より挨拶がなされた。
<審議事項>
2. 平成11年度第5回理事会議事録の承認
田中副本部事務局長より前回の議事録（案）が提示され、4箇所訂正することで承認された。訂正箇所は次の通りである。
審議事項3.（誤）平成12年度春季大会を実践女子大学を会場に、アクレディテーションをテーマとして開催する旨（正）平成12年度春季大会を実践女子大学を会場に、デザインアクレディテーションおよび21世紀のデザインの方向性（仮称）をテーマとして開催する旨
報告事項8.（誤）アクレディテーション検討委員会から（正）デザインアクレディテーション検討委員会から
報告事項8.（誤）アクレディテーションに関する勉強会の報告を特集号として発刊する（正）デザインアクレディテーションに関する勉強会の報告を特集号として発刊する
報告事項11.（誤）長岡での学会開催にあたり援助をいただいている長岡市に対する謝礼として、（正）長岡での学会開催にあたり援助をいただいている長岡市において、
3. 公共案内標識の統一について
加藤理事より、運輸省より公共案内標

- 識の統一に向けて、デザイン学会に開発と評価を依頼したいとの打診があった旨が紹介された。審議の結果、学会で正式なワーキンググループを設けて方策を提言することとした。ワーキンググループは、加藤理事を中心に、宮崎会長、原田副会長、黒川副会長のほか数名で組織することとし、人選を含めて加藤理事に一任することとした。
4. 学術振興会エコ・デザイン学会について
宮崎会長より、日本学術振興会に新たに設立されたエコ・デザイン学会からデザイン学会としての会員登録の要請があった旨が紹介された。審議の結果、正式に会員登録を申請することが承認された。
5. 日本学術会議について
宮崎会長より、日本学術会議から会員候補の推薦人の推薦が要請された旨が紹介され、審議の結果、鈴木特設理事および宮崎会長、原田副会長、黒川副会長を推薦することが承認された。
6. 日本技術者認定機構への登録について
宮崎会長より、日本技術者認定機構「JABEE」について、内容ならびに制度等（年会費10万円、会員の募集時期は任意）が紹介されるとともに、正会員登録についての審議が要請された。審議の結果、適当な時期をみて入会することが承認された。
7. 会員の移動について
本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会〔正会員9名（うち外国人会員1名）〕退会〔正会員7名〕休会〔正会員1名（出産、育児のため）〕が承認された。
<報告事項>
8. 評議員選挙結果
五十嵐選挙管理委員会委員長より、別紙資料に基づいて評議員選挙結果が報告された。
- | | |
|-------------|------------|
| 1）有権者数 | 1942名 |
| 2）投票数 | 459（23.6%） |
| 有効投票数 | 439 |
| 無効票 | 20 |
| 3）各地区の評議員定数 | |

第1地区：14、第2地区：107、第3地区：20、第4地区：33、第5地区17
次点候補者として、各地区＋3名を候補者とした。

4) 各地区の辞退者

第2地区：1名、他地区：0名。第2地区については、次点候補者をもって決定とした。

9. 感性工学科研費申請部門設置について
鈴木特設理事より、以下の報告ならびに要請がなされた。

1) 第5部人間と工学研連の中にデザイン専門委員会の設立をはかるべく努力する。

2) 科研費申請部門にデザイン工学の設置をはかることを目標とする。

3) 感性工学申請部門の恒常化をはかるため、年間300件以上の応募を努力する。

10. 作品集進捗状況

黒川作品審査・作品集編集委員会委員長より、作品集の進捗状況ならびに審査状況が報告された。27点の応募があり、審査の結果17点が掲載されることになった。

11. 学会誌編集・出版委員会報告

日原学会誌編集・出版委員会委員長より、デザインアクレディテーションをテーマとした特集号を発行したいとの要請があり、次号の第7巻2号として杉山理事を編集責任者とした特集号を発刊する旨が報告された。

12. 平成11年度秋季研究発表大会報告

豊口理事より、長岡造形大学にて開催された平成11年度秋季研究発表大会が市民・学生に好評を得て終了した旨が報告された。なお、会計については、現在進行中との報告がなされた。

13. 次回理事会日程について

次回理事会（拡大）を平成12年2月27日（日曜日）に開催することとした。会場については、事務局と会長の協議により後日決定することとした。なお、当日は、評議会（次年度の理事選挙）が開催される。

会員の移動

平成11年度第3回理事会承認 1999.7.17

< 新入会 >

○ 正会員28名（内外国人会員2名）

安藤修二	飯塚昌樹	池亀拓夫
今村朔郎	江藤太郎	蝦名 茂
岡部公美	奥田 實	櫛 勝彦
澤田憲茂	茂田明裕	鈴木祐子
高橋正広	高原恵理子	竹内玲奈
長嶋宏之	野田 文	野村松信
林 安任	平田由紀子	堀峰布子
松下英俊	宮下真尚	森島 紘
安井皓一	山本高取	
カトフ・マリン		李 偉

< 退会 >

○ 正会員10名

荒井 健	翁長洋子	後藤文生
角南健夫	野口不二夫	藤岡 靖
松林健一	村田浩之	森谷 熙
山口賢次郎		

平成11年第4回理事会承認 1999.9.11

< 新入会 >

○ 正会員47名（内外国人会員7名）

相原弘武	熱海 晋	有泉智晴
伊藤洋子	犬井聖恵	大岡典子
大北卓也	大谷 洋	大塚康平
恐神正博	緒方誠人	笠井 嘉
木原直美	桑田起男	黒野浩司
香西重俊	古森正泰	佐藤信晴
清水早苗	白石 学	鈴木俊英
高橋祐介	谷内大式	滝沢亜矢羽
富尾圭介	中村和俊	中川 存
西本直子	西川裕司	野田英介
馬場拓郎	林田廣伸	布施聡子
本庄恵美	本多裕史	松井龍哉
松田俊一	松尾晴之	森 巧一
山口直樹	崔 明植	邱 明民
辛 相永	張 宝光	
ホフマン ディーター		
GYARMATBOGDAN		河 鳳洙

< 退会 >

○ 正会員11名

荒木弘道	石川佳二	牛窪 正
加藤和吉	小池田康夫	斉藤 剛

佐々木健太郎

古屋 敏明

畠山耕造

宮木宏明

平成11年第5回理事会承認 1999.10.29

< 新入会 >

○ 正会員15名（内外国人会員3名）

小原 康裕	小原 洋子	金田 博
榊原 瑞穂	佐藤 徹	田原迫 玄
富田 聡子	柄 幾也	長瀬 稔
橋富 博喜	濱名 邦生	細野 英朋
金 京姫	許 聖哲	呉 起東

○ 年間購読会員2件

県立長崎シーボルト大学付属図書館
大東文化大学図書館逐次刊行物係

< 退会 >

○ 正会員6名

井上靖之	今井美樹	片柳 重昭
佐野正樹	山中正博	吉田光一

○ 年間購読会員1件

（株）澤田造景研究所

平成11年第六回理事会承認 1999.12.25

< 新入会 >

○ 正会員9名（内外国人会員1名）

井上文隆	石崎 幸	杉山真理子
谷口守孝	西濱豊和	真弓和也
宮崎英治	目黒正守	崔 祉淑

< 退会 >

○ 正会員7名

大江康二	久保田陽一	高橋まき
中嶋 斉	檜垣香恵	村岡 淳
渡辺武雄		

図書

会員寄贈図書

・ 渋谷邦男：

商品デザイン発想法、渋谷邦男著、東京美術、渋谷邦男会員寄贈

装飾とデザイン、羽生清著、昭和堂、羽生清会員寄贈

現代デザイン論、藤田治彦著、昭和堂、藤田治彦会員寄贈

寄贈図書

造形論のための20の対、中谷至宏 小林昌廣、昭和堂、昭和堂寄贈

ユニバーサルデザイン最前線、自治省・大阪府（大阪府立産業デザイン研究センター）・財団法人自治総合センター

製品設計・開発プロセス展ビジュアル・エンジニアリング・エキスポ1999報告書、日本経済新聞社、日経BP社

日本学術会議 1999年5月13日 湘南国際村

第2回地球圏 - 生物圏国際協同研究計画コンGRES、1999年5月7-13日湘南国際村、日本学術会議

工学教育の外部認証制度（アクレディテーション）の導入促進に関する調査報告書、産業基盤整備基金、平成11年3月

第16回東京シンポジウム、公共の色彩を考える、第14回「公共の色彩賞 - 環境色彩10選」パネルディスカッション「まちの色彩 - 動き出した市民」記録集、公共の色彩を考える会、1999年2月27日（土）東京・江戸東京博物館ホール

PROCEEDINGS The Sixth Asian Conference on Scientific Cooperation、第6回アジア学術会議、人口と環境～持続的発展に不可欠なアジアの役割～、1999年3月15-18日、日本学術会議
日本学術会議ハンドブック - 日本の科学者と科学の現状 - 1999年版、財団法人日本学術協力財団

機関誌

事業実施計画書、長野県情報技術試験場、平成11年度

長野県情報技術試験場研究報告、1999 15、長野県情報技術試験場

業務報告、平成10年度、長野県情報技術試験場

食器LIVING ACCESSORY、1999 166
AUMN

DESIGN LINK OSAKA、中小企業のためのデザイン情報、平成11年7月 vol.5

DESIGN LINK OSAKA、中小企業のためのデザイン情報、平成11年11月 vol.6

OIDI 研究報告1999、大阪府立産業デザイン研究センター研究報告書

たまびNEWS、号外1999 July、多摩美術大学広報

たまびNEWS、18、1999 September、多摩美術大学広報

Ocean's Fukuoka、オーシャンズ・フクオカ 1999.7.1、48、財団法人福岡観光コンベンションビューロー

Ocean's Fukuoka、オーシャンズ・フクオカ 1999.10.1、49、財団法人福岡観光コンベンションビューロー

HITECニュース、1999、No.51、北海道立工業技術センターTECHNOPOLIS HAKODATE

HITECニュース、1999、No.52、北海道立工業技術センターTECHNOPOLIS HAKODATE

ひろしま コンベンション ビュー vol.36、OCT.1999、財団法人広島コンベンションビューロー

グリーンコンベンション詩街[前橋]、平成11年7月発行vol.32、財団法人前橋コンベンション・ビューロー

CEEA、MARINE MESSE FUKUOKA INFORMATION PRESS、財団法人福岡総合展示場 vol.15、1999

CEEA、MARINE MESSE FUKUOKA INFORMATION PRESS、財団法人福岡総合展示場 vol.16、2000

N O C、vol.47/Sept.-Oct.1999、株式会社国際デザインセンター

N O C、vol.48/Nov.-Dec.1999、株式会社国際デザインセンター

N O C、vol.49/Jan.-Feb.1999、株式会社国際デザインセンター

デザイン学研究 1999.5、vol.12、1、韓国デザイン学会

デザイン学研究 1999.5、vol.12、2、韓国デザイン学会

デザイン学研究1999年春学術発表大会
論文集、韓国デザイン学会、1999.05.28

学著協ニュース、3、2000年1月18日、学協会著作権協会

KOBE DESIGNERS ASSOCIATION、KDA INFORMATION 2000-1 41、神戸デザイナーズ協会

T C 協会ニュース 第40号

T C 協会ニュース 第41号

T C 協会ニュース 臨時増刊号

VOICE OF DESIGN vol.5-3、日本デザイン機構、1999年11月30日

The Journal Interior Designers' Association 117、社団法人日本インテリアデザイナー協会機関誌

ポスター研究1、竹尾ポスターコレクション共同研究報告、1999.3 多摩美術大学

JAGDA 158 REPORT 1999、JAGDA IN ISHIKAWA 1999

JAGDA 159 REPORT 1999

感性工学、日本感性工学会誌 第1巻1号・通巻001号、1999年11月発行

鴻都、1999 vol.41

鴻都、1999 vol.42

鴻都、1999 vol.43

Deutschland 5/99、10月/11月

KUMAGAI UPDATE、1999 25 SEP.

KUMAGAI UPDATE、1999 26 OCT.

KUMAGAI UPDATE、1999 27 NOV.

KUMAGAI UPDATE、2000 29 JAN.

催し物・募集案内

学生ユニバーサルデザインコンペティション

(1)応募資格：芸術工学・プロダクトデザイン・建築・情報工学などを専攻する大学生・大学院生

(2)提出内容：

A主提案：建築環境・都市環境・道具など従来の専門分野に限定した提案に限らず、それら従来の専門分野を超えて複数分野に渡る総合的な提案も大いに歓迎します。

B調査報告：提案に先だって、高齢者・障害者が利用する施設や住宅・設備機器の調査や、バリアーに対応して提案されたデザイン事例についての観察調査など、提案の前提となる調査結果の小論文を提出してください。

(3)提出物：

・主提案：テーマ・コンセプト・設計図などをA1版パネル2枚以内にまとめて提出。

・調査報告：小論文をA4版2枚にまとめて提出。

(4)審査：応募者から1次審査で上位数人を選考し、2次審査で応募者は審査員の前で主提案と調査報告のプレゼンテーションを行い、質疑応答の上で評価を受けます。2次審査は公開としますが、審査員と応募者以外は発言出来ません。

(5)日程：

1999年9月末に募集要項を発表

2000年3月初旬に応募締切

2000年5月初旬に第二次審査結果の発表

2000年5月1等・3等、佳作数点を一定期間公開展示し、発表会を行う。

(6)入賞：

1等50万円・2等20万円・3等10万円
発表会の旅費は支給される予定です。

(7)2000年アメリカで開催されるユニバーサルデザイン国際会議では、学生対象のコンペが企画されているので、ホームページ参照の上、来年2月登録

して応募されることをお勧めします。

http://www.adaptenv.org/21century/pre_conference.rfp.htm

(8)企画・審査委員：

荒井利春（金沢美術工芸大学）

川崎和男（名古屋市立大学芸術工学部）

斎木崇人（神戸芸術工科大学）

清水忠男（千葉大学工学部）

谷口 元（名古屋大学工学部）

柳澤 忠（名古屋市立大学芸術工学部）

審査委員長

(9)主催者など：

主催：健康デザイン研究会

後援：松下電工株式会社

(10)問い合わせ：

名古屋市立大学芸術工学部内ユニバーサルデザインコンペ事務局にファックス（052-721-3110）

色彩基礎セミナー

「色の表情と色再現」

協賛：意匠学会・映像情報メディア学会関西支部・色材協会・照明学会関西支部・繊維学会・総合デザイナー協会・電子情報通信学会関西支部・日本建築学会近畿支部・日本光学会・日本写真学会西部支部・日本心理学会・日本繊維機械学会・日本繊維製品消費科学会・日本デザイン学会・日本人間工学会関西支部・日本分光学会関西支部・ほか数団体

参加要領：

開催日時：平成12年3月16日（木）～17日（金）両日とも9:30から

会場：大阪市立大学学術情報総合センター1F（大阪市住吉区杉本3-3-138）

定員：80名

受講料：2日間受講 会員18,000円、学生会員5,000円、一般25,000円 一般学生8,000円。1日のみ受講 会員10,000円 一般15,000円（いずれもテキスト代を含む） 協賛団体の各位も受講料は会員扱いとさせていただきます。

申込方法：申込書に必要事項をご記入いただき、同コピーを郵送かファックスしてください。受講料は、申込みを

いただいた時点で、受講料の入金確認をもって応募受理といたします。なお、事情により当日受付でお支払いいただく場合はその旨申込書の通信欄に明記してください。なお、受講申込が定員を超えた場合は2日間受講を優先します。ご了承ください。

[振込先] 大和銀行京都支店 普通 2805543（店番）501

日本色彩学会関西支部 会計 速水久夫（ハヤミヒサオ）

申込先：日本色彩学会関西支部

〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-3-14-812 辻埜プランニングオフィス内

TEL.06-6231-4071 FAX.06-6231-4073

E-mail:tsujino@gold.ocn.ne.jp

ピアマグランカイ3

京都文化博物館 平成12年度自主企画展 - 季節を祝う - 京の五節句 - 新春、雛祭、端午、七夕、重陽

・会期：平成12年4月21日（金）～5月21日（日）午前10時～午後6時 [入場は5時30分まで]

但し5月8日（月）は休室、5月17日（水）は休館

・会場：京都府京都文化博物館 4階特別展示室（京都市京区三条高倉 TEL: 075-222-0888

・主催：京都府・京都府京都文化博物館・京都新聞社

・後援：文化庁・京都府教育委員会・京都市教育委員会・京都府観光連盟・京都市観光協会・歴史街道推進協議会・平安建都1200年記念協会・NHK京都放送局

・入場料：一般：1000円（800円）・大高生：700円（560円）・中小生：400円（320円）

（ ）内は前売・団体（20名以上）料金

・展示資料：絵画（絵巻、屏風、掛軸等）染織品、漆芸品、人形、文献類など約130点

・展示構成と主な出品予定作品：

第1部 年中行事と五節句

第2部 新春＝元旦と七種

第3部 桃の節句 = 上巳
 第4部 菖蒲の節句 = 端午
 第5部 乞巧奠 = 七夕
 第6部 菊の節句 = 重陽
 第7部 工芸にみる五節句
 ・関連事業：講演会、列品解説
 第13回学協会共通問題に関する討論会
 (案)
 日時：平成12年4月25日(火) 13:00
 ~ 16:20
 会場：鹿島 K I ビル 地下大会議室、
 東京都港区赤坂6-5-30 (TEL03-5561-
 2111)
 主催：社団法人 日本工学会
 共催：日本工学正会員102学協会
 幹事学会：未定
 会費：3,000 円
 プログラム：
 開会挨拶 13:00 ~ 13:10
 テーマ：「学協会が社会に果たす役割」
 基調講演 13:00 ~ 13:35 「21 世紀に
 向かって科学技術関連学協会に望む」
 通商産業省機械情報産業局審議官 吉海
 正憲
 基調講演 13:35 ~ 14:00 「21 世紀に
 向かって科学技術関連学に望む」文部
 省(未定)
 講演(1) 14:00 ~ 14:35 学協会はいか
 に国際化に取り組むか、学位授与機構
 長 木村 孟
 講演(2) 14:35 ~ 15:10 特定公益学術
 法人の創設を目指して、東京大学生産
 技術研究所教授 木内 學
 講演(3) 15:10 ~ 15:35 学協会の大団
 団結を望む、三菱化学(株)顧問 小野
 田 武
 自由討論 15:40 ~ 16:20
 司会：日本工学会理事 伊東 誼
 前記講演に対する質問・意見を求める
 日本工学会副会長 佐々木 元
 閉会挨拶
 懇親会：18:00 ~ 19:30 会場：鹿島 K I
 ビル 2 階ラウンジ、会費：7,000 円(当
 日持参)
 参加申込み
 参加費：3,000 円

参加申込：往復ハガキに氏名・勤務先・
 住所・同電話番号・所属学協会名・会
 員番号を明記した上、返信ハガキ表に
 通信先住所・氏名を必ず明記して下さ
 い(FAXでの申込は受け付けません)
 懇親会：懇親会参加希望の方は、その
 旨ハガキに明記してください。
 申込先：〒107-0052 東京都港区赤坂
 9-6-41 社団法人日本工学会「学協会
 共通問題討論会」係宛
 参加証：会場地図を入れた参加証(返
 信ハガキ)をお送りいたしますので当
 日ご持参下さい。
 インターアカデミーパネル(IAP)2000
 年会議について
 1. インターアカデミーパネル(Inter
 Academy Panel: IAP)について
 (1) 概要
 1995年に世界のアカデミーのフォーラ
 ムとして設立。82ヶ国の科学アカデ

ミーが加盟。事務局は、全米科学アカ
 デミーに設置
 共同議長：F.シャーウッド・ローラン
 ド教授(全米科学アカデミー。オゾン
 層の形成と破壊のメカニズムに関する
 研究により1995年ノーベル化学賞受
 賞) P.N.タンドン博士(インド国
 立科学アカデミー)
 (2) 目的
 ア. 国際問題について科学的側面から
 勧告や情報を政府・国際機関に提供
 イ. 世界的な学術協力を通じて、各国
 が直面する重要な課題解決に貢献する
 ためのアカデミーの能力を育成
 2. インターアカデミーパネル2000年
 会議について
 (1) 開催日時 平成12年5月15-18日
 (2) 開催場所 東京国際フォーラム
 (3) 主催 日本学術会議
 (4) 参加機関 世界82の科学アカデミー
 等

事務局より

会費自動引き落としのお知らせ

次年度会費は2000年(平成12年)4月27日に引き落としとなります。

引き落とし額：

正会員年額	13,000 円
年間購読会員年額	25,000 円
賛助会員年額	1口 10,000 円(3口以上)

通帳には、銀行により、「JSSDカイヒ」もしくは「ニホンシンパン」と記載されております。会員各位において、ご確認ください。

なお、領収書の発行が必要な方は、事務局までご一報ください。領収書発行の登録手続きをいたします(登録は初回のみ。以後は必要ありません)

自動引き落とし手続きのお願い

当学会は、会費の自動引き落としが義務づけられております。

すでに、3分の1以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済みでない会員の方は至急登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。

次年度の登録手続きも、まだ間に合います。

届け出は文書にてお願いします

転居される方は、FAXまたは、綴じ込みの「入会届け」に朱書きで「変更届」と書き添えて 事務局まで連絡ください。退会等の届け出も必ず文書にてお願いします。(封筒の裏側の書式をご利用になると便利です。)

連絡先：日本デザイン学会本部事務局

〒167-0042 杉並区西荻北4-4-2 西荻窪201 電話 / FAX : 03-3301-9318

(5)参加予定者数 国外350人、国内100人 計450人

(6)会議の内容

ア・21世紀において人類が実現しなければならない持続的発展への移行に向けて、人口や食糧、水、などに関する問題解決のために科学は何をすべきか、また、なし得るかを探究し、それに基づいて人類が進むべき道を提言として宣言を採択

イ・アマルティア・セン教授(厚生経済学への貢献により1998年ノーベル経済学賞受賞)の特別セッション講演など、著名な科学者が多数参加予定

(7)会議の日程(平成12(2000)年5月)(予定)

3. 本件に関する照会先: 日本学術会議事務局学術部情報国際課国際調査係106-8555 東京都港区六本木7-22-34、TEL:03-3403-6291(内2458) FAX:03-3403-1982、E-mail: i266@scj.go.jp

第8回アジア学術会議 - 科学者フォーラムについて

1. 概要

(1)開催時期: 平成12(2000)年5月13日(土)~18日(木)

(2)開催場所: 東京(ホテルニューオータニ及び東京国際フォーラム)

(3)中華人民共和国、インド、インドネシア、日本、大韓民国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ及びヴェトナムの各国の学術推薦機関(アカデミー等)から推薦された科学者各2名ずつ計20名

(4)学術の交流、とりわけ近隣諸国間の交流は、それぞれの国の学術の発展とその地域全体の発展、ひいては世界の学術の発展にとって極めて重要である。このため、日本学術会議では、アジア地域の各国科学者の代表を東京に招き、アジア地域において学術の果たす役割、学術の交流・協力の在り方等に関する意見交換の場として、標記会議を平成5年度以降7回開催している。第8回会議においては、以下の2つを主

なテーマとしている。アジアの科学者の意見をIAP2000年会議に反映させるため、IAP2000年会議に向けての提言をアジア学術会議が作成し、IAP2000年会議において意見の発表を行う。2001年5月にタイ国で開催予定の第1回Science Council of Asia(SCA)に向けた諸準備に関する検討を行うこと。

(5)会議の日程[平成12(2000)年5月](予定)

2. 本件に関する照会先: 日本学術会議事務局学術部情報国際課国際交流係106-8555 東京都港区六本木7-22-34、TEL:03-3403-6291(内2452,2456) FAX:03-3403-1982、E-mail:i253@scj.go.jp

平成12年度「大阪府デザイン・オープン・カレッジ」の受講生募集について大阪府立産業デザイン研究センターでは企業経営者、企画開発担当者、デザイナー等の方々を対象に、デザインに関する最新情報をはじめ、今後のモノづくりのための商品開発手法、デザイン先端技術など、これからの産業活動やデザインビジネスに欠かすことができない知識や情報を習得していただくため、「大阪府デザイン・オープン・カレッジ」を毎年開催しています。平成12年度は下記9コースを開講し、4月7日(金)から受講の申込を受け付けます。

1「!これからの商品開発に必須のサステイナブル・デザインとは何か」: 6月16日、23日、30日、7月7日 定員: 25名 受講料: 10,000円

2「!企業経営におけるデザイン活用戦略の新たなステージ」: 7月18日、25日、8月1日、8日 定員: 25名 受講料: 10,000円

3「!商品開発促進セミナー - エイジレス商品開発手法を利用して」: 10月24日、11月1日、7日、14日、21日 定員: 25名 受講料: 12,000円

4「!ファッション動向」: 5月11日、18日、25日、6月1日、10月5日、12日、

19日、26日 定員: 50名 受講料: 12,000円

5「!インターネット利用によるビジネス最新動向」: 5月15日、22日、29日、6月5日 定員: 25名 受講料: 10,000円

6「!現代に生きる匠の技 - 装飾美に生きる匠の技」: 9月~10月頃の6日間 定員: 15名 受講料: 30,000円

7「!デジタルデザイン・クリニック」: 随時(要予約) 定員: 1名ごとに開講 受講料: 2,000円(1時間)

8「!3次元CGゼミ」: 随時(要予約) 定員: 1名ごとに開講 受講料: 30,000円(3日間)

「人間重視のモノづくり研究コース」: 5月12日、19日、26日、6月2日、9日、15日 定員: 20名 受講料: 20,000円
開講場所: 大阪府商工会館(コース6以外)(大阪市営地下鉄「本町」駅下車すぐ)

コース名、日程等を一部変更する場合があります。

問い合わせ・申込先: 大阪府立産業デザイン研究センター541-1154大阪市中
中央区南本町4-3-6 大阪府商工会館内
TEL:06-6281-0327 FAX:06-6281-0328
E-mail:oidi@mbox.mydome.or.jp

第16回ファジィシステムシンポジウム
~ファジィとノン・ファジィの統合~
主催: 日本ファジィ学会(SOFT)
共催: 国際ファジィシステム学会(IFSA)

協賛(予定): 計測自動制御学会、システム制御情報学会、日本オペレーションズリサーチ学会、日本行動計量学会、情報処理学会、電子情報通信学会、電気学会、日本人間工学会、日本機械学会、土木学会、日本医療情報学会、人工知能学会、日本ロボット学会、化学工学会、日本エム・イー学会、日本原子力学会、日本神経回路学会、社会・経済・システム学会、バイオメディカル・ファジィ・システム学会、日本繊維製品消費科学会、日本デザイン学会、日本心理学会、日本応用数理学会、数理社会学会、日本

建築学会、日本応用心理学会、日本教育工学会、日本塑性加工学会、日本経営工学会、日本計算工学会、日本バーチャリアリティ学会、日本顔学会、日本感性工学会、ヒューマンインターフェース学会、日本数学会

会期：2000年9月6日（水） - 9月8日（金）

会場：秋田公立美術工芸短期大学（秋田市新屋大川町12-3）

プログラム：基調講演、招待講演（西澤岩手県立大学学長およびAAI五味社長の予定）企画セッション（希望の方はプログラム委員長までご相談下さい）、一般セッション、電子ワークショップ（英語、日本を除くアジア地区のみ10件以内）ポスターセッション、デモンストレーション、懇親会（9月7日を予定）ウエルカムパーティ（9月5日を予定）

一般申込要領：詳細は日本ファジィ学会誌に後日掲載

参加費：日本ファジィ学会誌に後日掲載スケジュール：

講演申込締切：2000年2月25日（金）

講演原稿締切：2000年4月21日（金）

事前参加申込締切：2000年7月28日（金）

参加申し込み方法、参加費、宿泊案内、プログラム、会場案内などは、日本ファジィ学会誌、下記の学会のホームページなどで逐次広報する。

<http://soft.amcac.ac.jp>

問合せ先：大会委員長 中津山 幹男（秋田公立美術工芸短期大学産業デザイン学科）010-1632 秋田市新屋大川町

12-3 TEL:018-888-8111、FAX:018-888-8109、E-mail:nakatsu@amcac.ac.jp

プログラム委員長 森岡 正臣（宮城教育大学 教育学部 数学教室）980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 TEL:022-214-3405 FAX:022-214-3408、E-mail:m-

moril@ipc.miyakyo-u.ac.jp

組織委員長 小松 正武（秋田大学教育文化学部教科教育講座）010-0852秋田市手形学園町1-1 TEL・FAX:018-889-2527、E-mail:masamu@ipc.akita-

u.ac.jp

ピアマグランカイ3

募集要項

テーマ・募集作品：ビール党の方ばかりか、ビールをあまり飲まれない方にとっても「このマグなら、コノタンブラーならビールを注いでみたい」また「ビールがより美味しく飲めそうだ」と思わせる器とは？ビールの繊細な色や泡立ちをより引き立てる器とは？そんな、飲み手、使い手の感性に訴求する実用性高いオリジナルピアマグ・ピアタンブラー作品を募集します。

応募資格：プロ・アマ・個人・企業を問いません（共同制作可）

出品規定：

(1) 応募作品は

ハンドル付きのジョッキタイプ

ハンドル無しのタンブラータイプ

(2) 未発表・未発売の作品とします。

未発表作品とは自作作品で過去に展覧会、個展等で不特定多数の方を対象に発表されたことの無い作品とします。

(3) 作品素材は問いません。

(4) 作品規格はタイプ は容量350ml以上1l以下で空重量 2 kg まで、タイプ

は容量250ml以上500ml以下で空重量が2kgまで

(5) 実用性がある作品とします。（実際にビールを注いでみて、漏れや味に変化を与えない作品）

(6) 取扱上危険な物、時間の経過により変質する可能性がある作品は受け付けません。

(7) 追加制作が可能な作品若しくは最低限出品作品現品の販売が可能な作品に限りです。

(8) 作品申請価格は20万円（税込み）を上限とします。

出品料：

(1) 単品1点：3,700円

(2) 組作品1点：5,300円 組作品は1組2点までとします。

(3) 出品点数は1人5点までとします。

(4) 一旦、納入された出品料は事務局に過失のある場合を除いて返金できま

せん。

出品申し込み方法：事務局で配布する所定の申込書に必要事項を記入して、出品料を同封のうえ、平成12年4月10日（月）当日消印有効で現金書留にて御申込ください事務局より領収受付票及び作品データ票を送付します。

作品審査及び結果通知：作品審査は平成12年5月11日（木）・12日（金）の2日間で行い、審査結果は審査終了後2週間以内に応募者全員に郵便にて発送します。なお、審査に係わる一切の問合せは受付ません。

作品審査員：

浅原 千代治（ガラス造形家）

熊野 清貴（工芸家・大阪芸術大学教授）

鯉江 良二（陶芸家・愛知県立芸術大学教授）

鈴木 智之（ピアコンベンントインターナショナル本部理事）

高山 恵太郎（酒類情報誌月刊「たる」代表取締役）

竹内 治彦（恵比寿麦酒記念館館長）

藤島 積（財団法人札幌市技術文化財団副理事長）

山田 英代（さっぽろタウン情報文化担当記者）

賞与：グランプリ 1点 / 副賞賞金150万円及びサッポロ《生》ビール黒ラベル

350ml缶 1年分、ジョッキ部門優秀賞 1点 / 副賞賞金50万円及びスポンサー

記念品、タンブラー部門優秀賞 1点 / 副賞賞金50万円及びスポンサー記念品、ジョッキ部門佳作 3点 / 各副賞賞金20万円及びスポンサー記念品、タン

ブラー部門佳作 3点 / 各副賞賞金20万円及びスポンサー記念品、審査員特別

賞 5点 / 副賞賞金 5万円及びスポンサー記念品、入選：200点程度

作品搬入：

(1) 搬入期間：平成12年5月6日（土）～9日（火）

(2) 搬入場所：005-0864 札幌市南区芸術の森2-75札幌芸術の森アートホール

内ピアマグランカイ事務局

(3) 搬入方法：直接搬入及び運送業者

等による委託搬入

(4) 搬入留意点：

搬入に係わる経費は出品者負担となります。

梱包する際は作品とともに「作品データ票」を必ず梱入してください。「作品データ票」が提出されない場合及び記入事項不備の場合は審査対象外扱いとなります。

委託搬入される方は搬入期間内に到着するように期日指定便で託送して下さい。搬入期間期限以降に到着した作品は審査対象外扱いとなります。

保管場所の関係から搬入梱包資材は返却できません。

搬入までの作品輸送等における作品破損について事務局は一切の責任を負いません。

作品搬出：

(1) 搬出方法：直接搬出及び日本通運による委託搬出

(2) 搬出期間

選外作品：選外作品委託搬出希望の方は審査終了後概ね1ヶ月以内に託送いたします。選外作品自己搬出希望の方は保管期間、場所を審査結果とともに通知いたします。なお、自己搬出希望作品でも搬出期間内での作品引き取りが無い場合は痛く搬出扱いもしくは作品の破棄をさせていただく場合があります。

入選作品：入選作品による全国巡回展最終会期終了後概ね1ヶ月以内に託送いたします。

(3) 搬出経費：委託搬出については、送料着払いとさせていただきます。

入選作品は最終回地からの発送となります。託送料金は概ね梱包資材費、梱包代、送料を含み次の価格を目処として下さい。

参考価格（札幌→東京／作品1点）
A 梱包（通常梱包）運賃1,300円／梱包代1,000～1,500円
B 梱包（美術梱包）運賃1,300円／梱包代1,500～2,500円
梱包口数等によって価格は変動します。

上記料金はあくまでも基準価格です。

諸権利：

(1) 入賞作品の所有権は事務局に帰属し、芸術の森に収蔵されます。

(2) 入賞・入選作品の展示及びマグログVol.3、ポスターチラシ、その他本展の広報のために作品の撮影または複写使用する権利は事務局に帰属します。作品販売斡旋：

(1) 展覧会会期中、展示作品及び追加製作による予約斡旋販売を行います。

(2) 販売に係わる事務局手数料は作品価格の30%とします。

(3) スポンサー関連及び流通機関からの作品商品化の希望についても斡旋を行います。この場合の契約内容は別途となります。

作品損害補償：

(1) 会場での作品搬入受け入れから巡回展終了時点までの間で事務局の過失により作品に破損・損害を与えた場合は作品価格の70%までを事務局にて補償いたします。

(2) 搬出に伴う作品託送中の作品の破損については、運送会社の運送約款に基づく補償が行われます。

運送約款については下記にお問合せ下さい。

日本通運（株）札幌ペリカンアロー支店 TEL011-857-0202（担当：米木・菊地）豊平ペリカンセンター

表彰レセプション及びオープニングパーティー：

日時：平成12年6月18日（日）午前11時から午後1時30分

会場：札幌芸術の森

参加料：無料（会場までの交通費・宿泊費は個人負担となります。）

その他：

(1) 入選作品巡回展のうち東京展はスペースの関係から選抜作品展となる場合があります。

(2) 入選作品を対象とした作品カタログ（マグログVol.3）を制作します。

(3) 審査終了後の作品価格の評価替えはいたしません。

(4) 災害及び不可抗力による作品の損害については責任を負いかねますのでご了承下さい。

information：ピアマグランカイ1及びピアマグランカイ2のマグログの在庫は有りませんので販売は行っておりません。過去の入賞作品及び作品募集等のデータは下記芸術の森ホームページ「ピアマグランカイ」で公開しております。URL=<http://www.artpark.or.jp>

CALL FOR PAPERS

INTERNATIONAL ASSOCIATION OF ASIAN STUDIES

National Conference February 21-26, 2000 Houston Texas

Abstracts, Not to exceed two pages, should be submitted which relate to any aspect of the Asian and Asian American experience. Subjects may include but are not limited to literature, demographics, history, politics, economics, education, health care, fine arts, religion, social sciences, business and many other subjects. Please indicate the time required for presentation of your paper (25 minutes / 45 minutes). Abstracts must be postmarked by: November 23, 1999

Send Abstracts to: Dr. Lemuel Berry, Jr. Executive director, IAAS Morehead State University, 212 Rader Hall Morehead, KY40351

Telephone: (606) 783- 2650 FAX: (606) 783- 5046

Advertisement Registration form

INSTRUCTIONS: Businesses, corporations, community organizations, government agencies, book companies, etc. are encouraged to advertise in the International Association of Asian Studies convention bulletin. The fee for a full page advertisement is \$200.00. Participants should forward a camera ready advertisement not larger than 8"x11" along with the advertisement fee (\$200) by December 28, 1999. Please complete this form and return with advertisement fee to: Dr. Lemuel berry,

Jr., Executive Director, Caudill of Humanities, Morehead State University, 212 Rader Hall, Morehead, Kentucky 40351. (Phone: 606-783-2650, Fax: 606-783-5046). Make check payable to: IAAS

第12回（平成13年度実施）「食文化研究助成」募集案内

名称：財団法人味の素の文化センター「食文化研究助成」

募集期間：平成12年5月1日（月）～8月12日（土）期間内必着

申請者の資格：特になし

助成金額：原則として1件当たり50～100万円を基準とするが、最終的には研究の内容・規模に応じて決定

申請方法：所定の申請用紙に捺印の上郵送

採否の決定：食文化に関する学識経験者からなる選考委員会の選考により決定

結果の通知：平成12年12月末日までに申請者に文書にて直接通知

申請書類の入手方法：

ホームページよりダウンロード

<http://www.ajinomoto.co.jp/ajinomoto/lib/jose.html>

ダウンロード可能ソフト：ワード、一太郎、クラリスワークス

ダウンロードができない場合のみe-mail・電話・FAXで財団にご請求ください（電話の場合はウィークディの10:00～17:00）

e-mail: zyosei_asb_asb@ajinomoto.com

電話番号：03-5250-8396

FAX番号：03-5250-8234

尚、「食文化研究助成」には「成果報告書（本報告／要旨）国立情報学研究所DB原稿及び「収支報告書」等の提出が義務づけられております。

第12回 食文化研究助成（平成13年度実施）のご案内＜詳細＞

財団法人味の素の文化センターは食文化研究を広く支援しています。研究者の経歴・専門・学問分野を問わず、学際的な優れた研究に対し、下記の通り一年間の助成を行います。

1．助成対象

下記の条件を備えた研究に助成します。

(1)物心両面の食文化研究のうち、人文・社会科学を中心とする精神的所産に重点を置いた研究であること。

(2)研究の意義が明確であること。

(3)視点または方法が独自の研究であり、一年後の成果が食文化研究に新しい知見を加えることが期待できること。

(4)同じ課題について他の助成を受けないこと。

但しパソコン・カメラ・分析機器等の汎用性のある高額備品類の購入費用は助成の対象とはなりませんので、ご注意ください。

2．申請者の資格

研究目的の達成にふさわしい能力を持つ方であれば、申請者の資格は特に設けません。但し、申請書類及び諸提出物の作成は日本語でお願いします。

3．助成額

1件当たり50～100万円を基準としますが、最終的には研究の内容、規模に応じて決定します。

4．応募方法

(1)必要事項を所定の用紙の各項目の枠内に納まるよう、できるだけワープロ（またはワープロの切り貼り）でご記入いただき、下記の財団「食文化研究助成事務局」宛にお申し込みください。

(2)申請用紙はホームページよりダウンロード願います（使用可能ソフト：DOS版Word・一太郎／クラリスワークス）。ダウンロードができない場合は電話（受付時間：祝祭日、6/16及び7/14を除く月～金曜日の10:00～17:00）、ファクシミリ、e-mailにてご請求ください。

5．応募受付期間

平成12年5月1日（月）より平成12年8月12日（土）まで。期間内必着でご応募ください。

6．選考及び結果発表

(1)学識経験者からなる選考委員会での選考を経て、申請課題の採否結果を平成12年12月末日までに封書で通知い

たします。

(2)助成対象研究課題は、平成13年1月発行の季刊誌「vesta」第41号の誌上および等財団ホームページに掲載します。

7．助成金の交付

助成対象者と確認書を取り交わし、平成13年4月上旬までに申請者の指定する口座に振り込みます。

8．研究成果報告および収支報告等の義務

助成期間満了後、収支報告書、成果報告書（本報告）要旨、国立情報学研究所「民間助成研究結果概要データベース」登録原稿をご提出ください。提出期限は平成13年5月10日、

平成13年7月31日とします。

9．その他

研究成果を学会・一般に発表する場合は、研究が当財団の助成を受けて実施された旨を必ず明記願います。

10．問い合わせ・申請書送付先

〒104-8315東京都中央区京橋1-16-7 味の素本社ビル別館2階

財団法人味の素の文化センター

食文化研究助成事務局

TEL:03-5250-8396、FAX:03-5250-8234

e-mail:

zyosei_asb_asb@ajinomoto.com

ホームページ:

<http://www.ajinomoto.co.jp/ajinomoto/lib/jose.html>

「感性工学2000(第4回感性工学シンポジウム)」のご案内

主催	日本学術会議、日本感性工学会、日本工学アカデミー	10:30 ~ 10:40 / <休憩>
共催	(社)計測自動制御学会、(社)自動車技術会、(社)情報処理学会、(社)日本化学会、(社)日本機械学会、日本デザイン学会、日本ファジィ学会、(社)日本工学アカデミー、(社)高分子学会、(社)精密工学会、(社)繊維学会、(社)土木学会、(社)日本金属学会、(社)日本建築学会、(社)日本心理学会、(社)日本都市計画学会、日本セラミックス協会、日本行動計量学会、日本人間工学会、日本学術会議	10:40 ~ 11:20 / 講演(3) / ウェアラブル・ファッションと感性工学 石井威望(東京大学・名誉教授)
協賛	(社)電気学会、(社)日本エム・イー学会、(社)日本ロボット学会、(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会、(社)日本音響学会、(社)日本材料学会、(社)日本照明学会、(社)日本繊維機械学会、(社)日本繊維製品消費科学会、日本バーチャルリアリティ学会、(社)日本品質管理学会、システム制御情報学会、ヒューマンインターフェース学会、バイオメディカル・ファジィ・システム学会、ファッションビジネス学会、画像電子学会、形の科学会、日本応用心理学会、日本官能評価学会、日本顔学会、日本計算工学会、日本材料科学会、日本社会心理学会、日本色彩学会、日本味と匂学会、(社)化学工学会、(社)人工知能学会、(社)日本生物工学会、(社)電子情報通信学会、(社)日本塑性加工学会、社会・経済システム学会、教育システム情報学会、数理社会学会、日本医療情報学会、日本応用数理学会、日本化粧品技術者会、日本感性教育学会、日本教育学会、日本経営工学会、日本神経回路学会、日本生理人類学会、日本認知科学会	11:20 ~ 12:00 / 講演(4) / 「印象の工学」は情報化社会にどう役立つか 大澤光(富士通)
		12:00 ~ 13:00 / <昼食>
		13:00 ~ 13:40 / 講演(5) / 感性データ情報と感性データ情報処理の間の乖離 (「感性『工学』」か「『感性』工学(心の工学)」か) 西川泰夫(北海道大学大学院・教授)
		13:40 ~ 14:20 / 講演(6) / 感性工学に対する取り組みと今後の展望 今中武(松下電器産業)
		14:20 ~ 15:00 / 講演(7) / 人間中心設計と感性 黒須正明(静岡大学・教授)
		15:00 ~ 15:20 / <休憩>
		15:20 ~ 17:20 / パネルディスカッション 「情報化社会と感性工学」 石井威望、西川泰夫、黒須正明、加藤俊一、 今中武、大澤光
		17:20 ~ 17:25 / 終わりのご挨拶 鈴木邁(感性工学専門委員長/千葉大学・名誉教授)
(共催、協賛はいずれも予定)		資料代：お一人当たり2000円(当日、受付でお支払いください。)

テーマ：情報社会と感性工学

日時：2000(平成12)年5月26日(金)9:00 ~ 17:25

会場：日本学術会議・講堂

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

電話(03)3403-6291(代表)

地下鉄千代田線・乃木坂駅下車1分

<http://www.scj.go.jp/>

プログラム：

09:00 ~ 09:10 / はじめのご挨拶

鈴木邁(感性工学専門委員長/千葉大学・名誉教授)

09:10 ~ 09:50 / 講演(1) /

感性工学の問題点

村上陽一郎(国際基督教大学・教授)

09:50 ~ 10:30 / 講演(2) /

人工の感性、人間の感性

加藤俊一(中央大学・教授)

参加申し込み：eメール、ファクシミリあるいははがきで、事前にお申し込みいただきました場合には、資料代は1500円となります。(お名前、ご所属、ご住所、電話番号、ファクシミリ番号、eメールをお知らせください。)

問い合わせ/お申し込み先：

日本感性工学会・事務局

〒104-0045

東京都中央区築地4-12-2

ライオンズマンション東銀座1005

phone&fax:(03)3549-7727

e-mail: jske@wwwsoc.nacsis.ac.jp

<http://kce2.ke.shinshu-u.ac.jp/jske/kansei2K/>